

次世代育成は土木技術者の仕事



須田久美子
論説委員
鹿島建設株式会社
外環中央 JCT 北側ランプ工事事務所
副所長
(一社) 土木技術者女性の会
人材育成担当運営委員

土木技術者のあるべき姿を平易な言葉で簡潔に表現した事例に、次の「どぼく未来宣言」があります。これは、女性土木技術者および土木を勉強する女子学生（以下、ドボジョと略記）のロールモデル集団である（一社）土木技術者女性の会が、創設 30 周年記念行事「どぼく未来フォーラム」（2012 年 6 月 22 日）において採択したものです。

「どぼく未来宣言」

土木は、人々の命と暮らしを守り、真の幸福をもたらすという重大な使命を担っています。

わたしたち土木技術者は、常に自然災害の脅威に対して真摯に向き合い、それぞれの地域特性と社会特性に適合した自然と人間の共存のあり方を工夫し、自ら技術と人間性の研鑽に励むと共に、これを次世代に伝える努力を続けます。

私はここに示される土木技術者像を理想とし、自身の寿命を遥かに超えた未来において人々の命と暮らしを守り続けるという観点で次世代育成をとらえるべきであると考えます。その意味で次世代育成は土木技術者の最も大切な仕事と言えます。

土木構造物に想定される設計耐用年数が 50～100 年ということを考え合わせれば、少なくとも 100 年後の未来を見据えた人材育成が今求められます。100 年後の男女の就業者比率の動向分析を踏まえると、土木技術者の女性比率は 30～50%にする必要があります。土木界は女性の参画が極端に少ない分野の一つですが、その一因には、男性の多い職場環境において効率を重視した採用と人材育成が行われてきたことも挙げられます。これからの土木界における人材育成の成否はドボジョの育成にかかっていると言っても過言ではありません。ポイントは次の 2 点だと考えます。

- ①最新の叡智を駆使できる優秀なドボジョを土木のあらゆる分野で育てること
- ②自らの暮らしの中でそれぞれの地域特性と社会特性の変化を把握し、地域の人々の命と暮らしを守ることに情熱を注ぐことのできる生活者のリーダーとしてドボジョを育成すること

前者①は専門家としてのドボジョです。継続的に仕事として土木に係る必要があります。ドボジョは、土木学会会員比率でみると全体で 4.3%、60 歳以下で 5.1%となっており、20 代に限定しても 11.5%というのが現状です。日本政府は 2003 年に 2030（にいまるさんまる）の合言葉で数値目標を設定し、社会のあらゆる分野において 2020 年までに指導的地位に

女性が占める割合を 30%にするとしておりますが、土木界での目標達成は大変難しい状況です。女性に限らず男性にも言えることですが、多様な働き方への対応などの遅れにより、やる気のある人材が他分野に流動している事態を止めることができません。2014 年には国土交通省、日本建設業連合会がドボジョの 5 年倍増、10 年 10%を謳っていますが、いまだに就職活動をする女子学生は土木界で働き続けることに不安を感じて躊躇しており、また、一旦は入職したドボジョも結婚、子育てなどのライフイベントを乗り越えられずに退職するケースが少なくありません。さらに、出産・育児休業などを乗り越えて職場復帰を果たしても、職務変更や勤務形態の変化によってキャリア形成の見通しがたえず不安を抱えています。不安の原因には、ドボジョのロールモデルが極端に少ないために、情報を必要としている時期に必要な情報が彼女達に届かないことが挙げられます。ロールモデルの情報を集約しライフイベントに応じた働き方とキャリア形成モデルを新たに模索し、自ら子育てをしたいという多くの女性の欲求に応えられる柔軟な組織運営をそれぞれの職場で実践する必要があります。さらに、土木界を離れた女性が再び土木界に復職できる仕組みづくりが必要です。

後者②は住民のリーダーであり、一般教養として地域の土木教育を浸透させることにより地域特性を深く理解したドボジョを育成しようという考え方です。ドボジョのすそ野を広げ土木界を広くアピールする狙いがあります。人々の命と暮らしを守るという使命感や情熱は、人の役に立ちたいという人としての素朴な思いが種となり、土木の恩恵を自覚したり、尊敬できる土木技術者に出会うことで若い世代に受け継がれ、土木に関わりたいという願望につながります。種は学びによって生まれ、男性にも女性にも同じように芽を出します。土木学会創立 100 周年記念事業の一環としてシビル NPO 連携プラットフォームが設立されていますが、もともと男性の多い土木界ですので活動リーダーは男性に偏りがちです。地域・学校・市民組織との連携を強化する中で、あらゆる年齢層の多くの女性を取り込み、ドボジョとして育成しドボジョ自身が地域のリーダーとして次世代の担い手を育てることが必要です。

土木学会では 2015 年 5 月に「土木学会ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」を行い多角的に人材育成に取り組んでいますが、100 年後の次世代育成を見据え次の点を強化すべきであると考えます。

- a. 土木界への女性入職支援：働き続ける具体的なイメージを育てるための女子学生向けキャリア教育プログラムの確立
- b. ドボジョの就業継続支援：ロールモデル情報の収集・発信、イクメン・イクボス育成プログラムの確立、ドボジョ悩み相談窓口の設置
- c. 離職ドボジョの復職支援：ドボジョ登録・復職支援体制の確立、復職支援プログラムの確立
- d. ドボジョのすそ野拡大：地域・学校・PTA との連携プログラムの確立と全国展開、ドボジョ NPO 全国大会の新設

本年 2016 年 4 月 1 日から女性活躍推進法がスタートしますので、これに取り残されることなく土木学会が中心になって土木界全体で対応していく必要があります。